

## □ 西2丁目地下歩道に関連する都市計画の変更について



### 1 都市計画変更の内容

#### ■道路の変更

##### 8・6・3 西2丁目地下歩道

##### ・起点の変更

北側へ約160m移動

東豊線大通駅 → 北1西1街区

##### ・代表幅員の変更

13m(既存区間) → 8m(延伸区間)

※代表幅員：延べ延長が最大となる区間の値

##### ・名称の変更

8・5・3 西2丁目地下歩道 → 8・6・3 西2丁目地下歩道

代表幅員の変更による

※幅員12m以上16m未満は「5」、幅員8m以上12m未満は「6」。

## 2 経緯と理由

- ・都市計画道路「西2丁目地下歩道」は、昭和45年6月15日に都市計画決定され、(株)札幌都市開発公社により地下街（オーロラタウン）と一体で整備された。
- ・その後、地下鉄東豊線の工事に合わせて一部区間を延伸するため、昭和62年11月4日に都市計画変更している。
- ・さっぽろ都心まちづくり戦略において、市道「西2丁目線」は、札幌駅前通とともに地下空間の拡充による地上・地下の重層的な回遊ネットワークを形成するための南北方向の地下ネットワークの路線として示されている。
- ・また、北1西1街区の再開発事業における、市民交流複合施設や公共駐輪場といった公共施設を含んだ整備計画の中で、多くの市民がこれらの施設を利用することが見込まれる。
- ・今回の都市計画変更は「西2丁目地下歩道」の起点を変更(延長増約160m)するものであり、地下歩道の整備においては(株)札幌振興公社が所有する既存コンクリート躯体を使用する。
- ・この整備により、都心交通の円滑化や、歩行者交通の安全性向上、公共交通機関へのアクセス向上、および四季を通じた安全安心な歩行空間の拡充が期待される。

### (参考)

#### ○地下ネットワーク・イメージ図



## 【参考】延伸部の概要

延長：約 160m

東豊線大通駅～北 1 西 1 街区間

有効幅員：約 8m（※内装仕上げ後の幅員）

有効高さ：約 3m

既存コンクリート躯体：建設年度 — 昭和 61～62 年度

構造 — 鉄筋コンクリート造

整備内容：土木躯体増築工（階段室、電気機械室）

建築工（内装仕上げ、階段上屋）

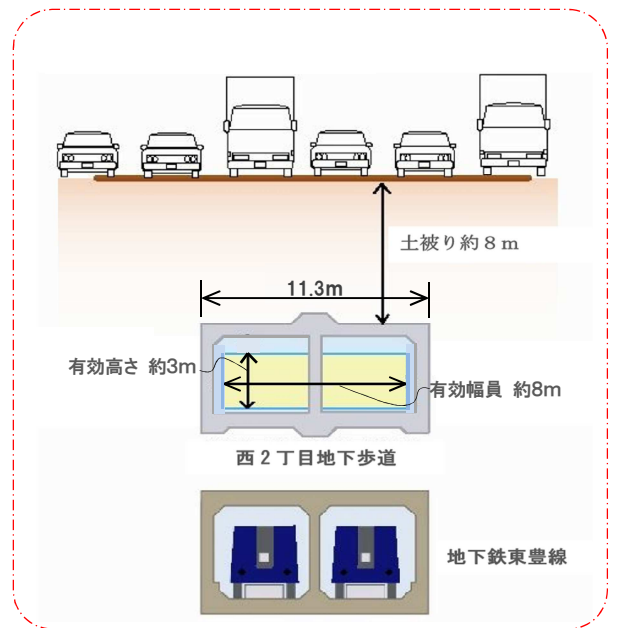
電気機械設備工（換気設備、照明設備

エレベーター・エスカレーター設置等）

接続箇所：北 1 西 1 再開発ビル

北海道経済センタービル

市役所本庁舎（予定）



### 配置・平面図

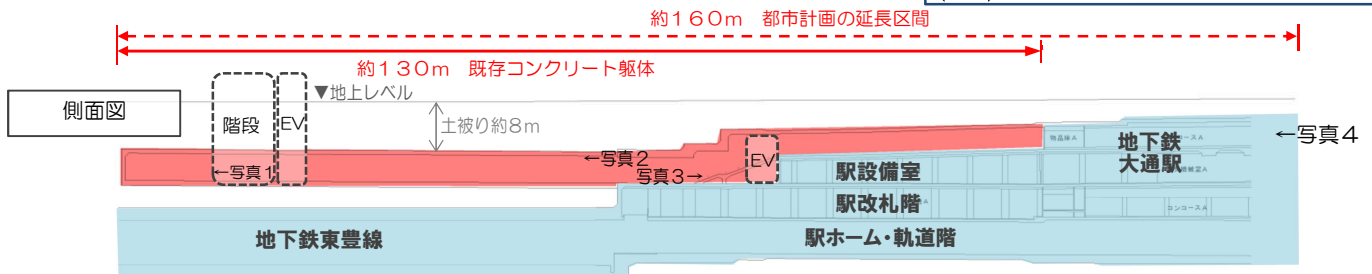
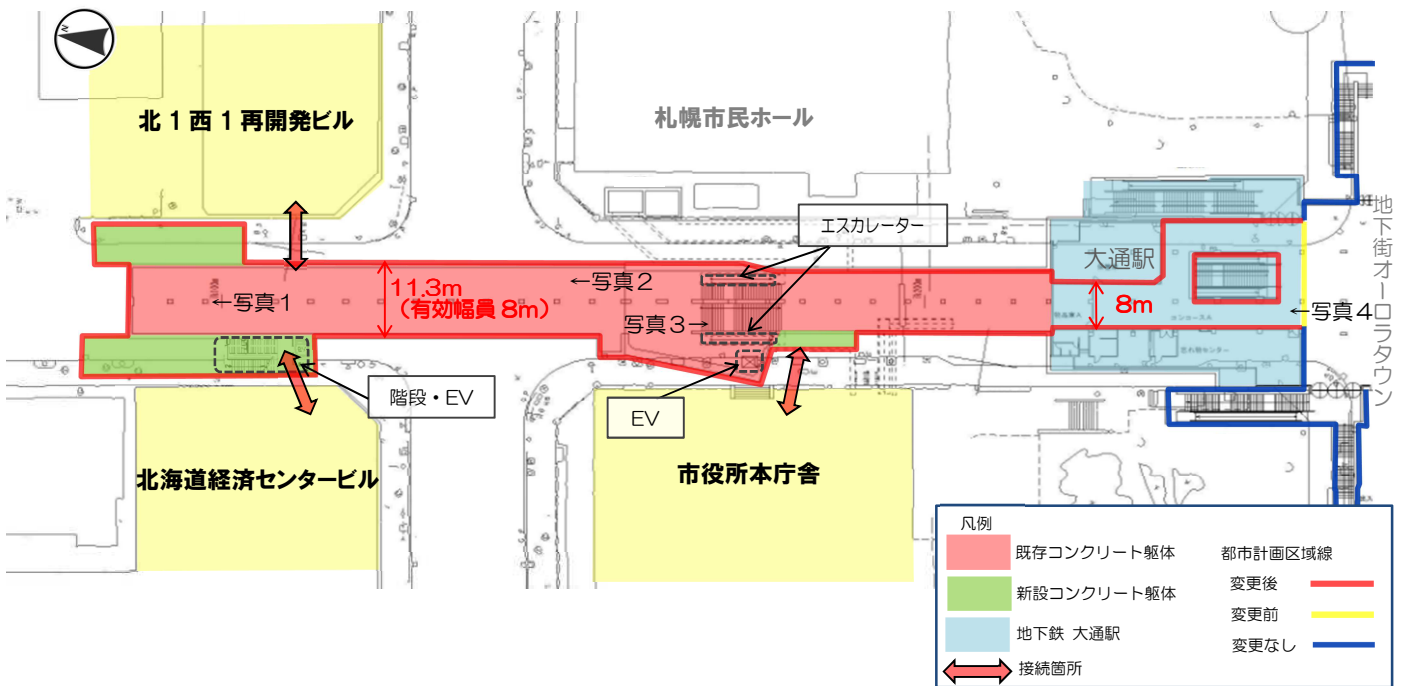


写真 1

写真 2

写真 3

写真 4



既存コンクリート躯体 内部

大通駅 接続部